

# 貢姫宛て鍋島直正書状にみる「心配」の記述について

—『愛娘への手紙—貢姫宛て鍋島直正書簡集—』をもとに—

寺澤 夏菜

はじめに

佐賀県立博物館では、令和五年二月一日から令和六年二月一日まで、テーマ展「親の心、子知らず—佐賀先人たちの手紙—」を開催した。その際に公益財団法人鍋島報効会から借用した二通の手紙からは直正が貢姫を心配していることがうかがうことができた。そこで他の手紙ではどのように記されているのかと思い、今回は手紙の文脈から読み取るものではなく、「心配」という単語で記されている「心はい」や「案し」という言葉に注目していくこととする。

本稿は佐賀藩十代藩主の鍋島直正が貢姫（直正の第一子）に宛てた手紙を『愛娘への手紙—貢姫宛て鍋島直正書簡集—』（鍋島直正著、公益財団法人鍋島報効会編集、二〇一八年。以下、『直正書簡集』と略記）に掲載されている一八五二年〜一八六六年の一四年間に交わされ、残っていた一九六通を基に考察したものである。この『直正書簡集』から直正の娘を想う姿を追い、直正の人となりを解する上での一助としたい。

## 1 概要

今回注目するものは「心配」の意味を持つものである。様々なものをあてることができるが、「案し」、「心はい（心配）」で表記されているものをあ

焦点をあてることとする。（以下、単語としては「心はい」、心配するとい

う意味で用いる場合は「心配」とする）「案し」は「案じる」のことであり、『直正書簡集』には「御案し申上候」（書簡番号〔112〕）と出てくることが多い。意味は心配すると同様であるが、「心はい」と繰り返し出てくる際により伝えたいものに用いられている場合が多いように見受けられる。そこで、一九六通の中から多少表記が異なるものを含め、「心配」・「案じる」という単語をもとに全て抜粋し、書簡番号、数をまとめた【表1】。

この表から「心はい」の記述がある書簡数が四四通六一箇所であり、「案し」は二二通二三箇所見受けられることが分かる。したがって、『直正書簡集』における「心配」に関する記述は四九通八四箇所に及んでいる。

## 2 直正、貢姫と松平直侯

手紙に記されている「心配」が誰から誰（何）に対して思われたものなのかについては【表2】・【表3】にまとめた。

単語としては八四箇所あるが、三五通は一通に付き「心配」の単語が一箇所であるのに対して、書簡番号〔38〕は最大八箇所記されている。特に「心配」が散見されるのは書簡番号〔33〕〔35〕〔36〕〔37〕〔38〕の五通である。これは安政四年六月・七月に交わされた手紙である。貢姫から松平

直侯（大和さま）が精神を病んでいることを直正に伝えたためである。

また、貞姫の夫である松平直侯の体調に関する記述が多く記されている（二一通）。そこには直正が松平直侯を心配する姿も見受けられる（五通）が、多くは貞姫が松平直侯を心配していること（二二通）についてである。その一方で、直正が貞姫を心配しているものは、書簡番号〔37〕〔125〕〔173〕の三通五箇所である。「心はい」・「案し」という言葉単体に着目すると直正が貞姫に対して「呉くも心はい杯いたし不申様」とのみ存候」（書簡番号〔36〕）というような内容が多数（一〇通一六箇所）散見されている。松平直侯を気遣いつつも傍にいる貞姫に対して「大和さまよりは、お貢之処を案し居申候」（書簡番号〔37〕）と佐賀から遠く離れた地にいる娘を想う父親としての姿をうかがうことができる。

### 3 その他

今回は具体的な考察はできていないが、「心配」以外の気遣う言葉である「安心」・「無事」「用心」が記されているものについては【表4】にまとめた。また手紙の性質上、多くを占める近況報告の際の「喜怒哀楽」に当てはまる表現がどれほどあるのかについても【表5】にまとめた。

【表4】の「安心」・「無事」は追伸にて「此方皆々無事、安心可致候」と記していることが多かった。また「用心」についても「時かふ用心候様候」などと現在の時候の挨拶に近いものを感じる。

また、【表5】からは過去の出来事での嬉しかったこと、喜びを「怡」で表し、未来に予定している楽しみなことを「相楽」で表していることが多いように見受けられる。これらをさらに分類することでより貞姫を想う

直正の姿を追うことができるだろう。

### むずびにかえて

直正が貞姫に向けた「心配」という単語としての数は三通五箇所であったが、「心配」に関する記述に焦点をあてると全体の1/4にあたり、周りの人々に対する想いや、松平直侯を心配している貞姫を気遣うという情愛を感じることができる。

本稿では「心配」に焦点をあてて、掲載書簡数や表記数、誰から誰（何）に対してなのかなどに言及したが、手紙の前身・背景までには及んでおらず、前述した「安心」・「無事」「用心」を分析することも今後の課題としたい。

これらの表が今後の鍋島直正の人となりや解するに、若干なりとも資することができると思われる。

#### 【註】

- (1) 書簡番号はすべて『直正書簡集』に準拠している。
- (2) 【表2】【表3】における誰が誰（何）に対しての表記は原則その書簡番号中の呼称を用いているが、称されていない場合は直正、貞姫で表記した。
- (3) 本稿における「読み下し文」はすべて『直正書簡集』に準拠している。
- (4) 【表2】【表3】において、誰が誰（何）に対して心配しているのかを考察したものを記しているが、貞姫の手紙を受けて書いているもの、周囲の者に宛てた者と不明点も多い。そのため不確定要素が多いものには「?」、不明なものについては「―」とした。何に対してなのかについては（ ）で考察したものを記した。

【表1】「心はい・案し」に関する書簡番号

案じる案				心配心								表記違い
大案し	案	案		大心はい	大心配	しんぱい	心はる	心はい			心配	
1	7	14		3	2	1	8	21			9	書簡数
1	7	15		3	2	1	11	31			13	表記数
154	033	154	004	036	167	093	033	161	078	025	002	掲載書簡番号
	140	163	036	155	170		035		080	032	023	
	148	178	037	170			038		085	033	037	
	154	186	038				081		091	035	053	
	157		092				110		115	036	078	
	162		101				129		125	037	126	
	173		112				139		130	038	128	
			125				140		151	054	160	
			126						152	058	171	
			127						157	076		

【表2】「心配」に関する記述

037 追伸	037 追伸	037	037	037	037	036 追伸	036	036	036	035	035	035	033	033	033	032	032	025	023	002	書簡 番号	誰		
大和様	大和さま	お貢	辰助其外	幾山始	お貢	貢	直正	辰助	貢	貢姫	幾山其外	貢姫	お貢 は幾山	お貢	お貢	貢姫	貢姫	貢姫	与一 (古川松根)	磯井はしめ	書簡 番号	誰		
																						↓		
(養子という自身の身分について)																							誰に(何に)	
		大和殿	大和殿	大和殿	大和殿	大和さま			大和さま	大和守さま	大和守さま	大和守さま	辰助	大和さま	大和さま	大和殿	大和殿(松平直侯)	直正	(骨を折って依頼物を調達したことに對して)	磯はま	書簡 番号	誰に(何に)		
																						↓		
		大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	御表	大和さま	奥(筆姫)	大和さま	於貢	於貢	於貢	於貢	幾山其外 辰助其外	於貢	書簡 番号	誰		
																						↓		
		弾真・お民	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	大和さま	直正?	小石川様	越前(松平慶永)	小石川様(徳川斉昭)	御表	御表	御表	御表	御表	御表(松平直侯)	書簡 番号	誰に(何に)		
																						↓		
		171	170 追伸	170 追伸	167 追伸	161	160	157	155	152	151	140	139	130	130	129	128	126	126	涼叢との ・お恵	125	115	書簡 番号	誰
																							↓	
		直正	直正	直正	直正	貢姫	貢	貢	直正	貢姫	直正	御叔母様 (直正叔母)	富之丞殿	貢姫	貢姫	直正	貢姫	貢姫	貢姫	養子または大和守殿	貢姫	誰に(何に)		
																							↓	
		(大石)良英	(大石)良英	(大石)良英	磯浦	和州さま(松平直克)	(「心配之御事」で不明)行方)	(大騒動を含めた今後の行方)	薩州表大合戦	(今後の異人騒ぎの行方)	弥来ル十日よりハ大騒動	お国下り	○茶屋の事	大和守さま	涼叢江一処より居候	田方杯	別紙ニ申越候内々的一条							誰に(何に)

186	178 追伸	173	163	162	157	154 追伸	154 追伸	154	148	140	127	126	125	112	101	092	038	037 追伸	037	036	033	004	書 番 号	
直正	貢姫	直正	貢姫	貢姫	直正	大石良英	大石良英	貢姫	直正	直正	貢姫	貢姫	直正	直正	直正	直正	於貢	直正	直正	貢姫	直正	直正	磯井	誰
於猶様(直正姉)	直正	貢姫	直正	直正	申や 世の中騒か敷、如何相成可	いそ(磯浦)	いそ(磯浦)	前はしの事	如何相成候世の中やら	春山老夫婦お国下り	(引っ越し後の未来)	(引っ越し後の未来)	貢姫	大和様	大和さま	大和さま	御表(松平直侯)	お貢	お貢	大和さま(松平直侯)	大和さま	磯はま	誰に(何に)	

【表3】「案じる」に関する記述

用心		無事		安心																									
用心	無恙	無異	無事	心安く	安易	心易く	大安心	表記違い																					
103	1	6	137	1	1	1	16	141																					
106	1	6	131	1	1	1	17	179																					
186	159	126	097	057	036	003	032	033	186	161	145	122	104	062	045	005	094	067	018	027	181	161	144	121	102	069	052	033	001
187	160	127	098	058	037	004	034	187	162	146	123	105	063	046	007					058	182	162	145	122	103	072	053	034	003
188	161	128	099	060	038	005	035	188	163	147	125	106	064	047	022					099	184	163	146	123	104	074	054	035	005
190	162	129	101	061	041	006	036	190	164	148	126	108	065	048	023					108	185	164	147	125	105	075	055	036	019
191	163	130	102	066	042	013	038	191	166	149	127	109	066	049	024					109	186	166	148	126	106	076	056	038	020
192	166	135	103	068	043	021	080	192	169	150	128	111	068	050	025					114	187	167	149	127	108	077	057	039	021
193	169	138	109	070	044	022		193	170	151	129	112	069	052	026					120	188	169	150	128	109	078	058	040	022
194	171	139	111	072	045	023		194	171	152	130	113	072	053	027					122	190	170	151	129	111	080	059	041	023
195	172	140	112	074	046	024		195	172	153	132	114	074	054	028					129	191	171	152	130	112	081	060	042	024
196	173	145	113	075	047	025			175	154	136	115	075	055	029					139	192	172	153	136	113	082	061	043	025
	175	149	115	076	048	026			177	155	137	116	076	056	030					141	193	173	154	137	115	085	062	045	026
	178	151	117	077	049	027			178	156	138	117	077	057	039					145	194	175	156	138	116	091	063	046	027
	179	152	118	080	051	028			179	157	139	118	078	058	040					149	195	177	157	139	117	093	064	047	028
	180	153	121	086	053	029			180	158	141	119	100	059	041					169		178	158	140	118	098	065	048	029
	182	156	123	087	054	030			182	159	142	120	102	060	042					179		179	159	141	119	099	066	049	030
	184	157	125	092	055	035			184	160	144	121	103	061	043					182		180	160	142	120	101	068	050	032

【表4】他の気遣いに関する記述

喜		哀		怒		楽																												
喜	怡	淋	かしらぬ	にいき	おしかり	叱り	大はら立	喜	嬉	萬(万)喜	大悦	悦	大よろこび	よろこび	歎	大怡	表記違い																	
54	80																																	
153	049	024	146	025	038	017	140	023	014	028	028	144	013	139	021	033	042	125	112	154	072	057	009	142	117	030	085	003	049	151	087	050	003	
187	051	026	153	031	132	078	142	058	060	030	070	157	024		023	036	046						087	020			158	125	006	054	153	090	051	005
		139	029	187	036	154	117	144	066	128	072	108	182	045		049	140						167	165				153	009	058	164	096	055	006
		188	058		043	160	119	145	080	136	090	110		057		050	161											025	072	167	098	058	007	
			059		044		127	148	098	163	186	140		072		051	162											049	158	169	109	059	009	
			074		045		164	149	104	172		144		074		077	164											115	170	113	061	024		
			153		049		150	120				172		086		109												140	171	118	064	032		
			161		051		154	122				182		090		111												143	172	120	065	036		
			163		106		171	122					094		144													172	183	123	067	037		
			164		108		180	125					098		151														189	125	070	039		
			172		118		183	133					113		153														191	138	076	040		
			184		127		186	135					118		170														194	139	080	043		
			190		139		187	139					121																	140	081	044		
			195		140		196	140					129																142	086	045			

【表5】「喜怒哀楽」に関する記述

(てらぎわ・かな／佐賀県立博物館会計年度任用職員)